

特集 50歳から住みたい地方ランキング1位  
北九州市の理由

北九州市は、医療の提供能力の余力と、介護の充足度が高い。噛み砕いていえば、病気になるときにちゃ

北九州が1位となった理由についてお聞かせ下さい

日本版CCRC「生涯活躍のまち」を推進する意向を示している243市町村を対象とし、公的な医療・介護データを編集部独自アンケートに基づいてランキングしました。

編集部の独自アンケートでは「移住支援」「シニアライフ支援」がともに満点。行政もアクティブシニアの受け入れに積極的と言えます。

対象となった都市は、どのような選定基準で選ばれたのでしょうか？



『田舎暮らしの本』編集長 柳 順一 さん  
1969年神戸市生まれ。1993年宝島社入社。『田舎暮らしの本』、パソコン本、『別冊宝島』などの編集部を経て2008年6月より現職に。

んと治療してもらえぬ病院に入ることができて、介護施設にも入りやすい。物価の安さも魅力的です。

2015年6月に日本創成会議の分科会が「医療介護に余力のある41地域」を発表しましたが、大都市は北九州市だけです。

編集部の独自アンケートでは「移住支援」「シニアライフ支援」がと

北九州市は、医療、介護が充実し、シニア世代が安心して暮らせる移住先として魅力的な街です。

シニアが移住することで、どのような効果があると考えますか？

意欲的で能力の高いシニアは、さまざまな現場で即戦力となる得がたい人材です。有能なシニアが現役時代に培った経験とノウハウ、高いコミュニケーション能力は若い人には求めにくいものです。アクティブなシニアが雇用を創出し、地域が活性化している事例は数多くあります。

『田舎暮らしの本』  
1987年に創刊した「日本で唯一」の田舎暮らし月刊誌。全国各地の物件情報や、田舎暮らしに必要なハウツーを紹介。お仕事情報など、実際の移住者レポートを交え、田舎暮らしに役立つ具体的な情報を発信している。

『田舎暮らしの本』8月号  
発売：2016年7月2日  
定価：800円(税込)

特集

50歳から住みたい

地方ランキング1位、

北九州市の理由



株式会社宝島社が発行する『田舎暮らしの本』(8月号)で、「生涯活躍のまち」構想を推進する自治体を対象とした「50歳から住みたい地方ランキング」で、「北九州市」が1位を獲得しました。

医療の提供能力の余力や、介護の充足度の高さに加えて、移住希望者向け現地ツアーなどの「移住支援」、高齢者の社会参加を支援する「シニアライフ支援」等がアンケートにより高い評価を得て、全国トップを獲得しました。

この結果について、『田舎暮らしの本』編集長 柳 順一さんにお尋ねし、さらに医療・行政の各関係者にもお話を伺いました。

50歳から住みたい地方ランキング

第1位 北九州市 (福岡県)

第2位 新潟市 (新潟県)  
高知市 (高知県)

第4位 宇部市 (山口県)  
豊後高田市 (大分県)

北九州市が選ばれたワケ

- 充実した医療・介護  
北九州市は病院も充実し、介護施設にも恵まれている
- 移住者歓迎度の高さ  
北九州市ではセミナーやお試し居住、ホームページなどで移住定住を支援、シニア世代を積極的に受け入れている!
- 地域の高齢者施設で自立した暮らしをサポート  
寄席やコンサートなど盛り沢山のイベントやさまざまなカルチャー教室が開かれ、地域の人の参加も多い!

※「生涯活躍のまち」  
(日本版CCRC) 構想

「生涯活躍のまち」構想は、「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や『まちなか』に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すもの

※宝島社『田舎暮らしの本』8月号、「50歳から住みたい地方ランキング」